

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 16 年 12 月 16 日 (2004.12.16)

【公開番号】特開 2004-72294 (P2004-72294A)

【公開日】平成 16 年 3 月 4 日 (2004.3.4)

【年通号数】公開・登録公報 2004-009

【出願番号】特願 2002-227018 (P2002-227018)

【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 L 29/08

H 0 4 B 7/26

H 0 4 L 12/56

【F I】

H 0 4 L 13/00 3 0 7 Z

H 0 4 L 12/56 3 0 0 A

H 0 4 B 7/26 M

【手続補正書】

【提出日】平成 16 年 1 月 15 日 (2004.1.15)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

送信機と受信機とからなる無線送受信機において、上記送信機が、送信パケットのデータ種別を判別し、データ種別に応じて最大転送単位 (M T U : Maximum Transmission Unit) の値を決定するための手段と、上記 M T U 値に従って送信パケットを複数のブロックに分割し、分割ブロック毎に無線区間用の通信フレームを生成するための手段と、上記無線区間用の通信フレームを無線信号に変換して送信するための手段とを有することを特徴とする無線送受信機。

【請求項 2】

前記決定手段が、データ種別対応に予め指定された M T U 値を記憶するためのテーブルを備え、該テーブルを参照することによって、前記通信フレーム生成手段で使用すべき M T U 値を決定することを特徴とする請求項 1 に記載の無線送受信機。

【請求項 3】

前記テーブルが、アプリケーションプログラム種別と対応して M T U 値を記憶しており、前記決定手段が、前記送信パケットを扱うアプリケーションプログラムの種別に従って上記テーブルを参照し、前記通信フレーム生成手段で使用すべき M T U 値を決定することを特徴とする請求項 2 に記載の無線送受信機。

【請求項 4】

前記決定手段が、前記送信パケットのヘッダ部に含まれるポート番号から前記アプリケーションプログラムの種別を判定することを特徴とする請求項 3 に記載の無線送受信機

【請求項 5】

前記テーブルが、通信プロトコル種別と対応して M T U 値を記憶しており、前記決定手段が、前記送信パケットに適用されたプロトコル種別に従って上記テーブルを参照し、前記通信フレーム生成手段で使用すべき M T U 値を決定することを特徴とする請求項 2 に記載の無線送受信機。

【請求項 6】

前記テーブルが、アプリケーションプログラム種別と対応して M T U 値を記憶した第 1 テーブルと、通信プロトコル種別と対応して M T U 値を記憶した第 2 テーブルとからなり、前記決定手段が、前記送信パケットを扱うアプリケーションプログラムの種別に従って第 1 テーブルを参照し、該第 1 テーブルに該当データがなかった場合に、上記送信パケットに適用されたプロトコル種別に従って第 2 テーブルを参照することによって、前記通信フレーム生成手段で使用すべき M T U 値を決定することを特徴とする請求項 2 に記載の無線送受信機。